

令和7年度 調布市立富士見台小学校 学校経営計画（学校長 小俣 弘子）

学校の教育目標	
命の大切さの自覚とともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する人権尊重の精神を基調とし、互いのよさを肯定的に捉えながら、多様な他者と折り合いつつ協調することのできる児童をはぐくむ。また、心身ともに健全で国際化、情報化など社会の変化に対応できる人間性豊かな児童の育成を目指す。そのために次の教育目標を設定する。	
⑤深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童）	
⑩自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童）	
⑦自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
子ども，一人一人を大切にする学校 1 自分の可能性を伸ばすことができる学校 ・自己肯定感を高める学校 ・分かる，楽しい，学びができる学校 ・個に応じた指導や体制を行う学校 2 安心・安全な環境の中で楽しい生活を築くことができる学校 ・一人一人を価値ある存在として尊重する。（他者への共感や思いやり） ・いじめや不安のない学校 ・事故やけがのない学校 ・災害等に備える学校 3 地域とともにある学校 ・学校・家庭・地域が一層の連携・協働を図り，子どもたちの学びの充実や豊かな人間性の育成につなげていく。 「安心感」「居場所づくり」「地域への愛着・貢献」 4 信頼される学校 ・教職員は，目の前の課題に真摯に向き合い，傾聴し，納得と信頼を得る努力をする。	
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	1 小学校 6 年間をかけて，「自分のよさ，強みが分かり，自分に自信をもって成長していく」子どもを育て，これからの社会に向けて前向きにチャレンジできる大人へ育てていきたい。これに向けて「自分のよさを育てよう！友達のよさを伝えよう！」をキャッチフレーズに自己肯定感を高めることに重点を置き取り組んでいく。 2 毎日過ごす学校が，自分の居場所として安心できる環境にしていける必要がある。そのため，いじめや不安につながる心配がない集団作りを行っていく。また，安全であるということは，学校生活の根底にある。児童自ら判断して，安全な行動がとれるように指導の充実を図ると共に，安全な環境を提供することを重視していく。 3 地域や保護者の方は，全体的に協力的な方が多い。コミュニティスクール 1 年目として地域の方との連携をさらに図り，児童の学習や生活に支援し，児童の安心感や地域への愛着をもつことに繋がると考える。 4 児童や保護者の相談，困り感に丁寧に対応し，児童の心の安定のために全力を尽くす。（組織で対応する。）
中期的な経営目標	
① 自他共に一人一人を価値ある存在として尊重し，いじめや不安がない安心して過ごすことができる環境づくりをする。 ② 主体的で対話的な学びを通して自ら考え，問題を解決しようとする児童を育成する。（学力の向上） ③ 健康保持・体力増進に努めるとともに，自分の命を大切にするための安全な生活ができる児童を育成する。 ④ 自分の可能性を伸ばし，自分い自信をもってチャレンジできる児童を育成する。（自己肯定感の向上） ⑤ 通常の学級・特別支援学級・特別支援教室等の組織的連携を図りながら，個別最適化した特別支援教育を推進していく。 ⑥ コミュニティスクールの運営を推進する。保護者・地域と連携し，学校情報を共有し共に児童を育てる意識の向上を図る。 人・組 職層に応じた自身の役割を自覚し，学校経営方針を実現させるための取組を工夫しながら取り組むことができる組織。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 自他共に大切にしている児童を育成するために，人権尊重の精神に基づき，多様性を認める授業や活動を実践（12 月の人権週間）し，誰に対しても相手を大切にしている思いをもち，あいさつなどの言葉遣いや行動（年間）に表すことができるようにする。	① 自ら課題をもち，主体的，対話的に考え，問題解決できる児童を育成する。教員は，授業改善を積極的に行う。【タブレット端末の利活用，ユニバーサルデザインの視点（ハンドサイン等），少人数指導，教科担任制等】	① 安全面（食・災害・交通・生活等）において，児童には，正しい知識を身に付けさせるとともに，教職員全員の危機管理意識を高度に保つ。安全教育を通じて自ら身を守る行動ができる児童を育成する。
① 「学習&生活のルール」「タブレットルール」を全校で共有し，規律の定着を図ることで安心できる生活環境を整える。また，いじめに関する授業の実施及び研修，「こころの健康観察」等のアンケートを通して，いじめのない安心した環境を作っていく。	② 年間 2 回の読書月間と毎週木曜日の読書タイムを中心に読書活動を推進し，言語感覚を養い，豊かな言葉の獲得を目指す。	③ 体力向上を図る取組（一校一取組，チョコブラ1）や外遊びの推進，運動会を工夫して実践し，運動の楽しさを味わわせる。また，体力テストを通じて課題を見つけ，改善に向けて取り組むようにする。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 学校評価アンケートにおける肯定的評価 ・「自他を愛する」（児童）に関する項目で 90%以上を目指す。（R6 88.2%） ・「自分はよく挨拶をしている」（児童）で，85%以上を目指す。（R6 82.9%）	① 学校評価アンケートにおける肯定的評価 ・「学力定着 分かった できた」（児童）88%以上（R6 86.2%）を目指す。 ・「教科担任制の効果」（新設）	①・児童のけがや食物アレルギー事故及びヒヤリハット事例のゼロを目指す。 ・学校評価アンケート（児童・保護者・教員）「安全・安心」の項目で 95%以上（R6 児童 89.2 保護者 94.9 教員 100%）を目指す。

	児童・保護者 85%以上を目指す。 ・「ICT 機器の活用」で 95%以上（R5…93%）を目指す。	
②学校評価アンケート(児童)において ・「基本的生活習慣」に関する項目で 85%以上を目指す。(R6 83.8%) ・「学校には友達がいて楽しい」で 95%以上を目指す。(R6 93.1%) ・「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」で 100%を目指す。(全国学力調査・質問紙)	② 学校評価アンケート（児童・保護者）において、「読書活動」（児童）項目への肯定的な回答 85%以上（R6 82.8%）を目指す。	③ 学校評価アンケート(児童・保護者)において、「健康教育」の項目への肯定的な回答 児童90%以上(R6 児童 87.6% 保護者 91.9%)を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 自己肯定感の向上	⑤ 特別支援教育	⑥ 地域とともにある学校
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 自己肯定感や自己有用感を高めるようにする。協働的な学び（自分の考えをもち認め合い高め合う中で学習を深める）の充実を図る。	① 計画に沿った特別支援学級児童と通常の学級児童との交流・共同学習を進め、多様性尊重への理解促進を図る。	② 「コミュニティスクール」の導入とともに「地域学校協働本部」の活動を更に充実させ、「放課後学習教室」や「漢字検定」、外部人材の活用等の取組を児童の安心感や学習意欲向上につなげていく。
③ 周りの大人が、一人一人の児童のよさを見つけ、伸ばす声掛け、支援を行っていく。また、学校、学年、学級で児童間で認め合う活動を取り入れる。	② 特別支援教室や個別指導等での学習が、在籍学級での指導・支援に活かされるよう、専門員やコーディネーターを窓口として円滑な連携が図られるようにする。また個別最適化した支援や環境を提供できるよう相談体制の充実も図る。	②学校だよりやホームページ、すぐーる、クラスルーム、保護者会等を通じて学校情報を共有し、共に同じ方向を向いて児童を育てる意識を高める。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 学校評価アンケート（児童・保護者）において、	①	①
・「思ったり考えたりしたことを話し合っている」で 85%以上（R6 82%）を目指す。	・かしわ学級との交流機会を各学年・学級で位置付ける。（月 1 回以上）	① 学校評価アンケートにおいて、「地域とともにある学校づくり」（児童・保護者）への肯定的な回答 80%以上を目指す。また、保護者の「分からない」を
② 学校評価アンケート（児童）において	② 学校評価アンケート（児童・保護者）において、	②学校評価アンケート(保護者)において
・「自分にはよいところがある」で83%以上（R6 75.6%）を目指し、「分からない」（R6 17%）と回答する児童を減少させる。	・「相談体制」に関する項目で児童 90%以上、保護者 80%以上（R6 児童 88.5%保護者 78.8%）を目指す。	・「情報発信」に関する項目で 95%以上（R6 95%）を目指す。

人材育成・組織運営
・主幹教諭をリーダーとして主任教諭の能力を生かした OJT の充実（月 1 回）を図る。（若手教員の育成，授業力の向上） ・調布市教育委員会の研究推進校として「安全教育」について組織的に研究を積み重ね，授業力と組織力の向上を目指す。 ・組織の一員として，担当の分掌に責任をもち，前年度踏襲にとどまらず，校務改善に向けて改善案を提案する。（自己申告時目標設定） ・教員が笑顔で元気に児童の教育に邁進できるように，ライフワークバランスを推進する。（在校時間の管理 月平均 45 時間以下 80%以上）